

県立医大研修医から人気

地方と連携 臨床幅広く

県内充足率全国6位

全国の大学医学部を卒業する新人医師の臨床研修先として、県内の病院が人気を呼んでいる。2011年度の研修医の募集定員に対する希望者の割合を示す充足率が和歌山は85・7%と、大都市が上位を占めるなか、全国6位になることが、日本医師会などで行く「医師臨床研修マッチング協議会」の調査でわかった。県立医科大病院（和歌山市）が独自の研修プログラムで研修医を引きつけていることが大きく、同大学は「研修医が和歌山の病院へ定着すれば、医師不足解消につながる」と期待している。

定着で不足解消期待

2004年度に導入された新臨床研修制度では、医師免許取得後、2年間、複数の診療科の研修が義務化される一方で、研修先を全国の病院から自由に選べるようになった。このため、大都市の病院に人気が集まり、地方で医師が不足する傾向にある。11年度の充足率を見ると、ベスト3は東京都92・94%、大阪府91・09%、京都府91・06%の順で大都市

を抱える都府県ほど高く、東北、九州などでは50%を切る県も多い中、和歌山は6位に入った。県立医大によると、県内では、同大病院や総合病院など8病院の11年度の研修医の募集定員計98人に対し、84人が内定した。84人のうち61人を占める同大病院は、救命救急センターを整備しており、病床数も、都市部の病院と大きな差はないことが人気

を集めた一因だが、協力関係を結んだ各地の病院でも研修を受けられるシステムが研修医の評価を高めている。県内唯一の医大で、各病院にベテラン医を派遣する同大病院は、これまで築いてきた各病院との関係を生かして、新臨床研修制度のスタート当初から研修医の受け入れを要請。協力病院は今では24病院となり、大阪府や秋田県などの病院も加わった。研修医として2年目となる寺田弘子さん(26)は「大

学病院だけでは、なかなか実践の機会が得られない。派遣先の病院では、大学で学んだ知識を実際に使うことができた」と話し、幅広い臨床経験が積める点を魅力に挙げる。また、研修医が3か月単位で研修先を選ぶことができる自由なプログラムも設定。「研修先が合わない」と感じた場合は他の病院に移ることができ、臨床研修センターの上野雅巳准教授は「研修医をつなぎ留めるため、受け入れる各病院も指導を熱心に行うようになってい

結納品 各種贈答品卸・製造直売

西川

和歌山県新宮市三本町芝原北000番地1号

422-0805-2873

る」と話す。こうした取り組みにより、同大病院を研修先に希

望した新卒医師は03年に41人だったのが、10年には63人と1・5倍に増えた。上野准教授は「県全体での研修制度として考えれば、研修医の得られる経験は都市部の病院にもひけをとらない」と自信をのぞかせ、「医師不足に悩む各地のモデルケースにしたい」と話している。